

どう感じてる？



ガラスの天井を越えて

ねらい

現在、日本社会には200万人を超える外国人が在住しており、人口の100人に1人以上は外国籍住民で占められるほど、社会のあらゆる分野に在日外国人の存在が“あたり前の存在”として位置づけられてきています。

しかし、外国人といっても多様で、在日韓国・朝鮮人のような旧植民地出身者とその子孫や中国残留孤児の関係者とその子孫といった歴史的経緯を持った人たちもいれば、1980年代以降、仕事や結婚、留学などで来日して定住していく外国の人たち（ニューカマー）もいます。

この在日外国人が安心して日本で暮らしていくためには、偏見や差別、異文化間での摩擦をなくすための共生の関係づくりや社会システムづくりが求められています。このプログラムでは、在日外国人との共生をテーマに、「ひとづくり」という見方から「一人ひとり」をありのままに受けとめる多様性の観点で社会を捉えることを学びます。

※表題の「ガラスの天井」とは、アメリカにおけるマイノリティの「法的差別」はなくなったはずなのに、マイノリティの社会参加や進出が困難な状況を象徴する言葉として用いられています。つまり、「機会の平等はあるはずなのに、上にあがることはできない、見えない天井が存在する」という意味です。このプログラムでは、機会の平等も保障されていないという状況を含めて、「ガラスの天井」と表しました。

基本概念

多民族・多文化共生、自他理解、ユニバーサルデザイン（共生システム）

時間

90分～130分

準備するもの

- 「名刺カード」（参加人数分）〈55ページ〉
- ワークシート「名刺交換記入用ワークシート」（参加人数分）〈56ページ〉
- 「参加カード」（①オレンジ、②緑色、③黄色、④青色を割合（※）に応じて参加人数分にする）
- ※参加人数が30人ならば、①オレンジ3枚、②緑色7枚、③黄色15枚、④青色5枚にする箱（何でもよい）
- のり付きふせん紙（7～8cm角 参加人数分×20枚程度 ※多めにあるとよい）
- 模造紙（グループ数）
- マーカー（グループ数）

プログラムの流れ

肩書きで自分が変わるか？

さまざまな職業や肩書きが記載された名刺カードを参加者全員に配布し、全体で名刺交換を行います。1回あたり1分から1分30秒をめどに会話をし、終了後は交換した名刺の肩書きが次の新しい名刺となり、5～10人の人たちと交換します。名刺の肩書きによって自分がどのような気持ちになるかを考えます。

【アクティビティ】  
名刺交換